

# 令和元年6月定期総会 議事に関する説明

特定非営利活動法人 産学連携学会  
会長 木村雅和



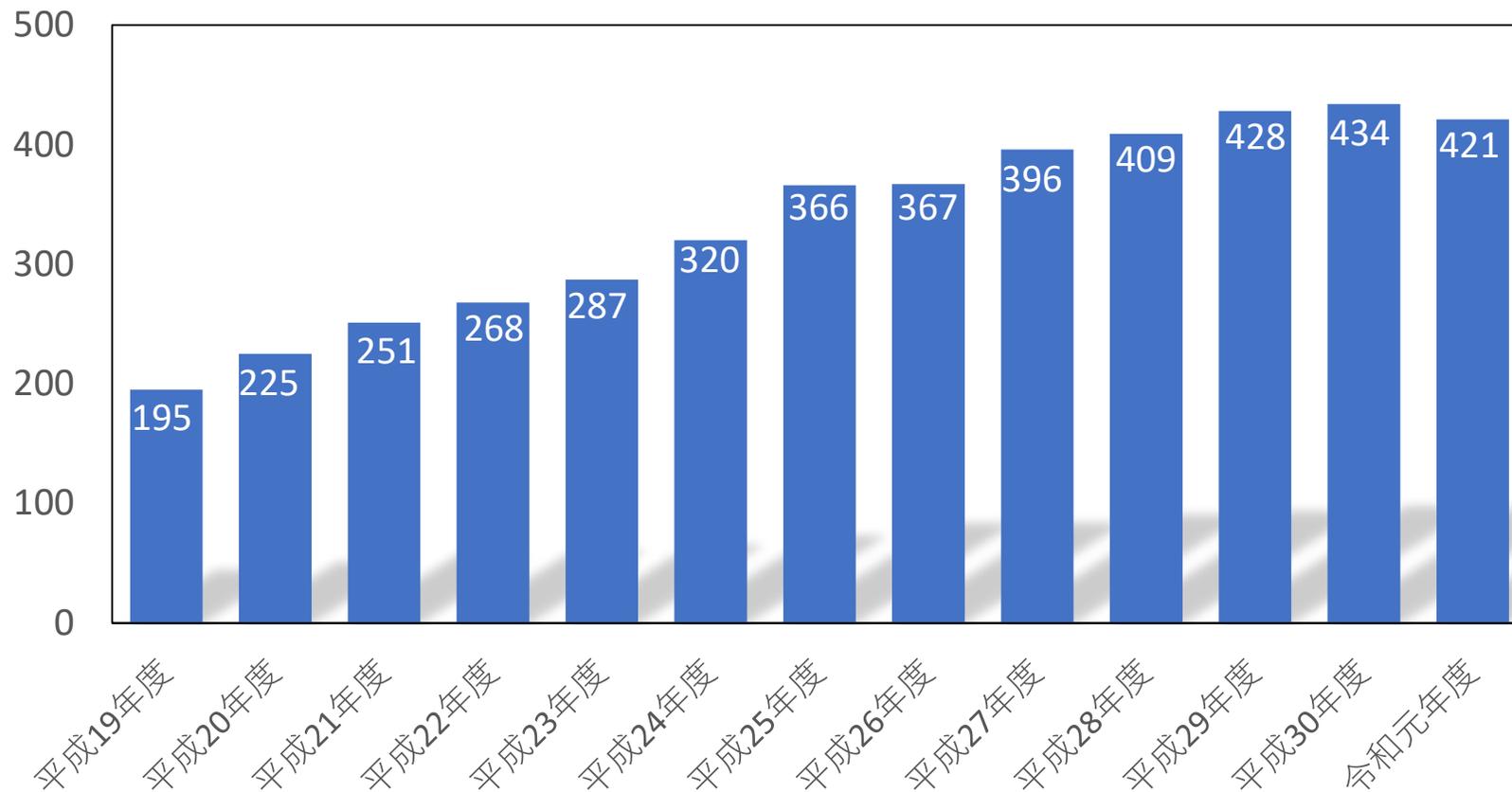
# 第8期運営の基本

## 『新しい価値の創生』

(学会員のための学会)

⇒ 原点に立ち、会員のための学会

# 会員数推移



今年(令和元年度)は会員数が初めて上げ止まりとなりました

## 1. 学会誌, 研究大会の充実

1. **大会の開催**:平成30年6月14日～15日第16回大会を山口市において開催(参加者数401名、発表件数148件)
2. **学会誌の発行**:学会誌「産学連携学」第14巻第2号(平成30年6月30日)第15巻第1号(平成31年1月20日)を発行
3. **海外学会との交流**:平成30年12月6日、7日に高知県産学官民連携センター(ココプラ)において、韓国の産学協力学会と第4回日韓ワークショップを開催(日韓比較研究会、参加者:15名、発表者:13名)
3. **シンポジウムの開催**:平成30年12月21日に「産学官連携による革新的イノベーションの可能性 ～ゲノム編集技術の実現に迫る～」をテーマに東京医科歯科大学を会場に秋季シンポジウムを開催

## II. 支部・研究会活動の活性化

### 各支部活動

1. **北海道支部**:平成30年度支部総会を開催(平成30年7月9日:札幌市)、産学連携セミナー「産学連携には人材育成もあるんだ!」の開催(平成30年7月9日:札幌市)
2. **東北・北関東支部**:産学官各センター間の知識フローを理解し、産業の高度化とイノベーション創出へのヒントを得ることを目的に「産学・地域連携セミナー」を開催(平成31年2月8日:郡山市)
3. **関西・中四国支部**:第10回研究・事例発表会&記念講演会を開催(平成30年11月30日~12月1日:岡山市)
4. **九州支部**:平成30年度産学連携ネットワーク会議を開催(平成31年3月29日:福岡市)

# II. 支部・研究会活動の活性化

## 研究会活動

1. **学連連携システム研究会**: 第19回研究会の開催(平成30年12月19日:江東区)
2. **オープンイノベーション研究会**: オープンイノベーションの先行事例、支援システムの紹介等を進めるための議論を重ね、事業提案を行った。
3. **リサーチ・アドミニストレーション研究**: 第9回研究会を開催(平成30年6月13日:山口市)、研究大会オーガナイズドセッションを開催(平成30年6月15日:山口市)、第10回研究会を開催(平成30年8月8日:川崎市)
4. **地域社会実装研究会**: 研究会の開催、第1回「中小企業産学連携ニーズ研究」の開催(平成30年9月10日:奈良市)、第2回「中小企業ニーズ発掘サロン」の開催(平成30年12月6日:奈良市)、研究会(平成31年1月15日:JST)
5. **行動経済・社会システム研究会**: 関西・中四国支部の第10回研究・事例発表会 & 記念講演会での2件の発表と新たな研究テーマの設定についての協議を行った
6. **日韓比較研究会**: 第4回日韓ワークショップを開催(平成30年12月6日、7日:高知市)

### III. その他の活動

1. **ニュースレターの発行**: ニュースレター32号を発行
2. **メールニュースの発行**: 第899号～第982号発行(84回)
3. **お茶の水コラボレーションセミナー**: 東京都市ヶ谷JST東京本部別館会議室にて第29回～第32回(全4回)のセミナーを開催(平成30年5月7日、9月12日、12月13日、平成31年2月13日)
4. **各種イベントや展示会での出展**: 「アグリビジネス創出フェア2018」への出展(平成30年11月20日～22日、江東区)(研究促進委員会)
5. **後援事業**: 「第10回国際ワークショップ(平成30年10月18～19日:三重県津市)」、「アグリビジネス創出フェア2018」(平成30年11月20日～22日、江東区)「輸出管理 DAY FOR ACADEMIA 2019」(平成31年3月20日:江東区)、「第6回福祉住環境サミット(平成31年3月16日～17日:大阪部豊中市)」の4件

# 2号議案：平成30年度決算報告

科	目	金額	小計・合計
(A)	経常収益		
1	受取会費 入会金 年会費	132,000 5,142,000	5,274,000
2	受取寄附金		0
3	受取助成金等		0
4	事業収益 研究事業収益 啓発事業収益 講演・研修事業収益	3,379,920 343,000 385,000	4,107,920
5	その他の収益 受取利息	36	36
	経常収益計		9,381,956
(B)	経常費用		
1	事業費 (1) 人件費 給料手当 謝金	259,000 235,824	494,824
	(2) その他経費 事務用品費 消耗品費 リース料 接待交際費 旅費交通費 通信費 支払手数料 会議費 外注費 印刷費 会場費 情報交換会費	28,325 78,425 5,160 30,070 784,015 311,577 602,920 890,557 162,000 1,424,109 888,660 302,094	5,507,912
	事業費計		6,002,736
2	管理費 (1) 人件費		0
	(2) その他経費 減価償却費 通信費 支払手数料 諸会費 外注費	13,620 299,597 100,307 30,000 2,592,000	3,035,524
	管理費計		3,035,524
	経常費用計		9,038,260
	当期経常増減額【(A)-(B)】・・・①		343,696
(C)	経常外収益 固定資産売却益 過年度損益修正益		0
	経常外収益計		0
(D)	経常外費用 固定資産売却損 災害損失 過年度損益修正損		0
	経常外費用計		0
	当期経常外増減額【(C)-(D)】・・・②		0
	税引前当期正味財産増減額①+②・・・③		343,696
	法人税、住民税及び事業税・・・④		
	前期繰越正味財産額・・・⑤		4,045,719
	次期繰越正味財産額③-(④)+⑤		4,389,415

会員は微減であるが、会費収入が約10万円増収

啓発事業収入は昨年とほぼ同額

通信費の削減約16万円の削減

学会誌の印刷業者の変更等による印刷費の大幅削減(約145万円)

通信費の削減(約10万円)

平成30年度は単年度収支で343,696円の黒字となりました

## 3号議案:令和元年度事業計画

1. **大会の開催**:第17回大会を奈良市において開催
2. **学会誌の発行**:「産学連携学」を年2回発行する
3. **秋季シンポジウムの開催**
4. **海外学会との交流**:韓国の産学協力学会と韓日ワークショップを開催  
(釜山市、10月)
5. **情報発信**:ニュースレター(年3回)、メールニュース(随時)の発行
6. **新規参加者の開拓**:支部・研究会活動の強化、新支部の設立
7. **各支部、研究会活動**

# 4号議案：令和元年度事業予算計画

科 目	金 額	
<b>I 増加原因の部</b>		
1. 受取会費		
入会金	250,000	
会費収入	5,200,000	5,450,000
2. 事業収益		
研究事業	3,400,000	
啓発事業	500,000	
講演・研修事業	400,000	4,300,000
3. その他収益		
受取利息		0
合計		9,750,000
<b>II 減少原因の部</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	300,000	
謝金	250,000	
人件費計	550,000	
(2) その他経費		
会議費	1,000,000	
旅費交通費	700,000	
通信費	300,000	
印刷費	1,550,000	
会場費	920,000	
消耗品費	80,000	
事務用品費	30,000	
支払手数料	600,000	
情報交換会費	450,000	
その他経費計	5,630,000	
事業費計		6,180,000
2. 管理費		
(1) その他経費		
通信費	290,000	
印刷費	10,000	
消耗品費	15,000	
事務用品費	40,000	
支払手数料	100,000	
外注費	3,080,000	
租税公課	5,000	
諸会費	30,000	
その他経費計	3,570,000	
管理費計		3,570,000
		9,750,000
当期正味財産増減額		0
前期繰越正味財産額		4,389,415
期末正味財産合計額		4,389,415

回収継続および増強による増収(+20万円)

啓発事業促進(+20万円、入門書等販売等)

会議費、会場費の若干の増加(支部活動強化)

効率化の検討の継続(印刷費等の軽減の維持)

効率化の維持と事務局負担の軽減

支部・研究会活動の強化と魅力ある学会の姿を模索して  
**会員増強に努めて参ります！**

## 5号議案:役員改選

### 【令和元年度役員】

会 長: 木村雅和(静岡大学)

副会長: 飯田香緒里(東京医科歯科大学)、石塚 悟史(高知大学)、

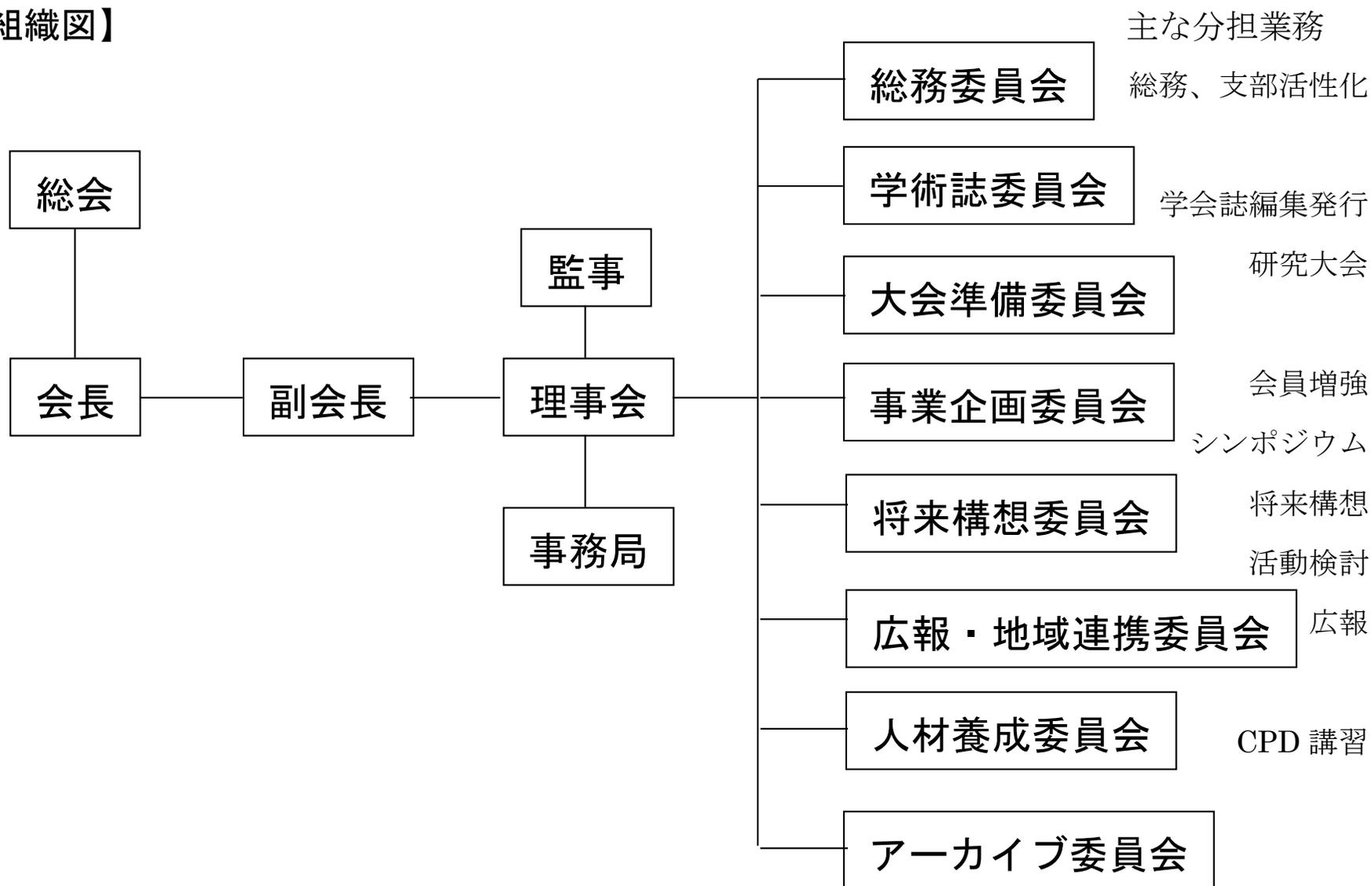
理 事: 網屋毅之(大谷特許事務所)、伊藤慎一(秋田大学)、内島典子(北見工業大学)、  
内山大史(弘前大学)、江田英雄(光産業創成大学院大学)、緒方智成(熊本大学)、  
尾関雄治(東レ(株))、小野浩幸(山形大学)、川名優孝(東京海洋大学)、  
木村 尚仁(北海道科学大学)、北村寿宏(島根大学)、菅万希子(帝塚山大学)、  
永富太一(香川大学)、馬場大輔(経済産業省)、林聖子(亜細亜大学)、  
廣田勝巳(国立研究開発法人科学技術振興機構)、  
松平竹央(知財経営研究社)、松本毅((一社)Japan Innovation Network)、  
山本一枝((株)ウェザーコック)、李鎔璟 (山口大学)

(会長、副会長を加えて23名)

監 事: 川崎一正(新潟大学)、桑江良昇(北里大学)

事務局長: 小野浩幸(山形大学)

【組織図】



## 6号議案:令和元年度表彰者

業績賞:長崎大学 医学部研究高度化支援(MEDURA)戦略職員・  
産学連携コーディネーター

大石 博海 氏

(医工連携の嚆矢として位置づけられる活動をし多大な実績を残した)

論文賞:小出 輝 氏、中根知大 氏、松本 賢英 氏、渡邊 政嘉 氏

「日本版バイ・ドール制度の効果に関する考察」

産学連携学 第14巻第2号掲載

(産学連携学の発展に資する重要な意義深い知見を見出した)

功労賞:宮崎大学地域資源創成学部

丹生 晃隆 氏

(広報委員としての産学連携学会に関連する情報を広く提供した)

特別賞:推薦募集期間に推薦がなく該当なし

ありがとうございました